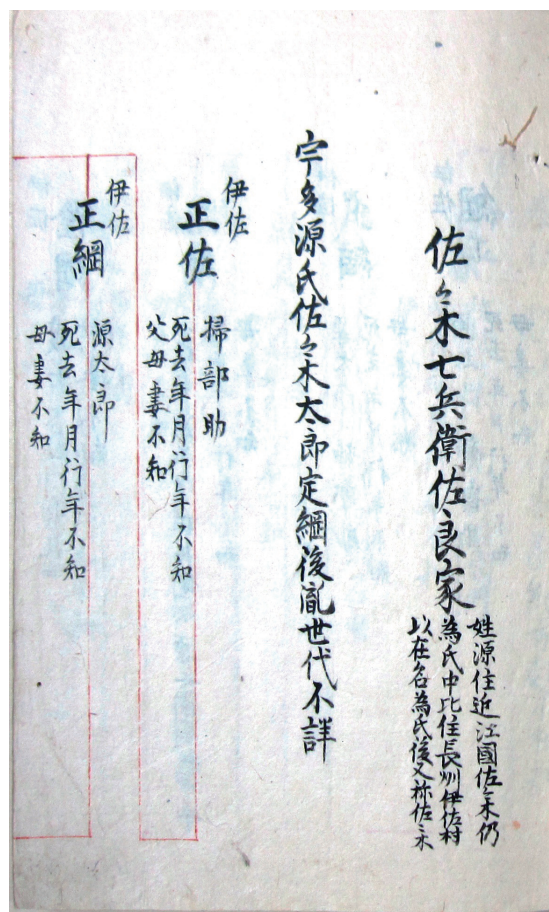


姓と名字



* 興隆寺文書20巻4「大内義隆二月会頭役差定」の署判部分「多々良朝臣義隆（花押）」（写真左）

*毛利家文庫 23譜録さ30「佐々木七兵衛佐良」冒頭の割書は、「姓は源。近江国佐々木に住す。よつて氏となす。中比（なかごろ）長州伊佐村に住し、在名を以て氏となす。のちまた佐々木と称す」（ここでは、名字は氏と表現されています）（写真右）

解説

姓と名字は、現代では同じ意味ですが、本来はまったく別物です。姓は一族のルーツを示す公式な名であり、名字は私的に名乗るものです。前者は、源・平・藤原・橘などが著名であり、後者は本拠地や役職の名などに由来するものがあります。10世紀ごろに登場した武士が成長し、各地で勢力をもってくると、日常の場では、姓に代わって本拠とした土地の名を名字として名乗る例が増えてきます。武士が政権を担った鎌倉時代になると、こういったことが一般的になりました。

例えば、鎌倉幕府の実権を握った北条氏は、桓武天皇を祖とする一族（桓武平氏）なので、姓は平、名字は本拠地である伊豆国田方郡北条（現静岡県伊豆の国市）に因んでいます。幕府の有力御家人の中には、足利、小山、畠山、三浦など、関東地方の地名に由来する名字をもつ者も少なくありません。

中世の山口県域の代表的な武士である大内氏の場合、姓は多々良で、周防国吉敷郡大内（現山口市）を本拠としたことから、大内を名字とします。そこから分かれた一族は、各々の本拠地の名を名字として、右田、間田、鷺頭、末武、陶などと名乗りました。このほか、伊佐（源姓・美祢市）、青景（藤原姓・美祢市）、厚東（物部姓・宇部市）、梶森（三善姓・岩国市）、武久（藤原姓・下関市）、仁保（平姓・山口市）など、山口県の地名を名字とした武士は、勢力の大きさを問わず、数多くいます。